

生井 飛鳥 NAMAI, Asuka

役職 准教授
所属 化学専攻
着任日 2019年8月1日
前任地 化学専攻
キーワード
磁気化学, ナノ材料学

Message

化学的ナノ粒子合成を基軸にした物質合成, 新機能性開拓に取り組んでいます。物質が秘める可能性を学生さんと共に追求していきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。



池本 晃喜 IKEMOTO, Koki

役職 講師
所属 化学専攻
着任日 2019年8月16日
前任地 化学専攻
キーワード
構造有機化学

Message

分子の形にこだわって研究をしています。特異な構造をもつ分子の設計・合成を通して, その分子の性質を如何に引き出していくのか, 日々考えています。今後ともよろしくお願いたします。



おしらせ |

東京大学理学部ホームカミングデイ2019

広報委員会

理学部では, この日を「ファミリーデー」とし, ご家族で参加いただけるイベントを行います。本学をご卒業・修了された方はもちろん, ご卒業生・修了生のお子様や近隣地区の小学生・中学生の皆さまにご来場いただき, 理学の世界に触れていただく機会になれば幸いです。

- 【日時】 2019年10月19日(土) 13:30~15:15 (受付13:00)
- 【場所】 東京大学本郷キャンパス理学部1号館2階小柴ホール
- 【参加】 事前申込制: 参加費無料

詳しくは理学部HPをご覧ください。

東京大学理学部ホームカミングデイ

検索



東京大学理学部ホームカミングデイ2019ポスター

阪口豊先生のご逝去を悼む

茅根 創 (地球惑星科学専攻 教授)

阪口豊名誉教授は、2019年7月9日にご逝去されました。享年90歳でした。

先生は1929年東京生まれ、東京大学理学部地理学科卒業、同大学院博士課程修了後、助手、助教授、教授として、1990年に退官されるまで地理学教室の研究と教育を支え、主宰されました。地形学、陸水学、気候学を通照された自然地理学に基づいて、考古学、河川工学、生態学とも共創されました。こうした視座は、湿潤変動帯としての日本の原自然の特性をまとめ、ご自身も地形、川、湖の章を執筆された岩波書店「日本の自然」(1980)、「日本の自然全8巻」(1985-1987)に結実されています。

気候変動についても、一貫したフィールドだった尾瀬ヶ原のコアの花粉分析によって、過去7,600年間の気温変化を年単位で復

元し1982年に発表されました。そこに示された縄文温暖期中4250年前の寒冷イベントは、昨年国際地質科学連合が完新世最上部の基底として認定した4250年前と一致します。現在の異常気象を、長い時間スケールの変化の中に位置づけることの重要性を示す先見的なご研究でした。地球科学はその後細分化して、分野を横断した自然地理学は教えるにくなっていますが、地球環境と人間との関係が問われている現在にこそ必要な視座であると思います。

先生が地理学教室を主宰していた期間に、私は学生としてご教授を受け、学生も一人前の研究者として接せられ、真摯に研究に取り組む姿勢をお教えくださいました。ご指導に心から感謝し、ご冥福をお祈りいたします。



故・阪口 豊 先生

野津憲治先生のご逝去を悼む

平田 岳史 (地殻化学実験施設 教授) / 鍵 裕之 (地殻化学実験施設 教授)

野津憲治本学名誉教授が2019年7月28日、満72歳でご逝去されました。昨年末からご病気で体調を崩されていましたが、本年3月に開催された地殻化学実験施設創立40周年の集まりには元気な姿で参加されていましたので、先生の訃報は私たちに大きな衝撃でした。野津先生は本学理学部化学科をご卒業され、大学院で博士の学位を取得した1975年に本学理学部助手に採用されましたが、翌年には筑波大学化学系に講師として移られました。化学科で一番滞在年数が短い助手だったとよく話されていました。1987年に本学理学部に助教授として戻られ、1995年の教授昇任を経て東京大学で長きにわたり研究と教育、運営に多大な貢献を果たされました。先生は宇宙・地球化学の研究で先進的な研究を行われました。1970年代に野津先生が世界に先駆けて提案したSm-Nd年代測定法は、今や地球化学の世界では誰もが知る標準的な手法として発展しました。東大に戻られてからは噴火予知を目指した火山の化学モニタリングの研究に着手し、赤外分光による火山ガス化学組

成の遠隔測定に世界で初めて成功されました。こうした研究成果により1994年には日本地球化学会賞を受賞されています。野津先生は日本地球化学会会長、日本学術会議の地球化学・宇宙化学研究連絡委員会委員長などの要職に就かれるとともに、火山噴火予知連絡会委員、地震予知連絡会委員など実に多数の委員を歴任されました。国際的にはIAGC Councilなどを務められ、2003年にGoldschmidt Conferenceを初めて日本で開催する際には中心的な役割を果たされました。東大退職後も、静岡大学、早稲田大学などで教鞭をとりながら、小中学生を対象とした教育活動にもご尽力されていました。ここ数年は科学史研究に関心をもたれ、偉業を達成された先人研究者が感じた喜びや悔しさを通じて研究の楽しさを後世に伝えようとしていました。

野津先生がこんなにも早く旅立たれたのは残念でありませんが、12年前に先立たれた奥様と天国で仲良く過ごされていることと思います。ご冥福をお祈りします。



故・野津 憲治 先生

博士学位取得者一覧

(※) は原題が英語 (和訳した題名を掲載)

種別	専攻	取得者名	論文題名
2019年7月22日付 (2名)			
論文	生科	井ノ口 (加藤) 霞	主嗅覚系を介した社会行動を引き起こす神経回路の形成メカニズム (※)
課程	地惑	仲小路 理史	フォルステライト + 20 vol% エンスタタイト多結晶体の拡散クリープと粒成長: 両者に共通する拡散メカニズムとその結果による弱い粘性率温度依存性 (※)
2019年7月31日付 (2名)			
課程	物理	齊藤 真彦	ATLAS 検出器での 13TeV 衝突エネルギー実験データを用いた消失飛跡を特徴としたチャージノ探索 (※)
課程	生科	浅野 吉政	概日時計における転写抑制因子 E4BP4 の DNA 結合配列の同定と E4BP4 によるマウス血糖維持機構の解析 (※)

人事異動報告

異動年月日	所属	職名	氏名	異動事項	備考
2019.7.1	総務	総務課総務チーム (旅費担当) 係長	高松 宏	昇任	教養学部等経理課上席係長へ
2019.7.1	総務	総務課総務チーム (旅費担当) 上席係長	野場 琢也	配置換	教養学部等経理課上席係長から
2019.7.31	生科	特任助教	植松 朗	退職	
2019.8.1	生科	特任准教授	植松 朗	採用	
2019.8.1	化学	准教授	生井 飛鳥	昇任	同専攻助教から
2019.8.1	化学	特任助教	西川 道弘	採用	
2019.8.1	生科	技術専門職員	伊藤 那津子	配置換	附属臨海実験所から
2019.8.1	臨海	技術専門職員	曲輪 美秀	配置換	生物科学専攻から

※ 2019年7月号に掲載の2019.6.1に転出となりました藤野智子 助教 (化学) の転出先等は、物性研究所助教です。